

美術館

だより

vol.11

Houki Museum information

植田正治

わが風土記―山陰の風と光

二〇〇七年一月二十七日(土)

―四月二十二日(日)

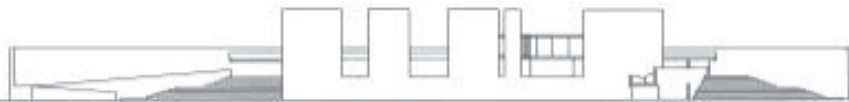
山陰の地で生まれ育ち、その風土を体に包み込んだ植田がとらえる出雲の風景には、古来より山陰地方に語り継がれてきた「国引き」や「八雲立つ国」を思わせるものがあります。

今回の展覧会では、植田が1960年代から70年代にかけて撮影したカラーによる山陰の風景、「シリーズ〈出雲〉」を、ご紹介いたします。

全戸配布しております、町民無料招待券をご持参のうえ、来館ください。



シリーズ〈出雲〉より 1964-1980年



植田正治写真美術館 電話39-8000 ホームページ <http://www.japro.com/ueda/>
休館日毎週火曜日（祝祭日の場合は翌日）

ほうき発掘調査だより

一万二千年前の

石槍が出土！

財団法人鳥取県教育文化財団では、昨年度から坂長地内において発掘調査を行ってきました。坂長周辺は古代会見郡の中心地で、奈良時代から平安時代にかけて会見郡役所や坂中廃寺などの古代寺院が存在したと考えられています。

しかし、今年度の調査では、それよりもはるかにさかのぼる縄文時代の初め頃（約一万二千年前）に、既にこの地で人々が活動していたのが分かりました。

写真は、坂長村上遺跡・坂長道端中遺跡から出土した縄文時代初めの尖頭器と呼ばれる石の道具で、動物を捕まえる時に使った槍の先端であると考えられます。これらの尖頭器は、鳥取県内産とは考えられない安山岩と黒曜石という石でつくられており、細かい加工により非常に鋭い刃がつけられています。

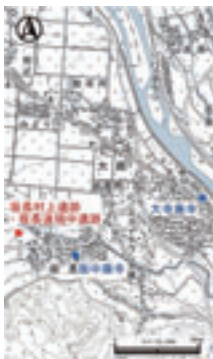
遺跡からは五本の尖頭器が見つかっています。県内では、これまで約三十本の尖頭器が見

つかっていますが、一つの遺跡からこれほど多くの尖頭器がまとまって見つかった例はありません。

今年度の発掘調査はすでに終了しましたが、周辺の調査が来年度以降も引き続いて行われる予定であり、新たな発見が期待されます。



出土した尖頭器



調査地位置図

財団法人

鳥取県教育文化財団

調査室 岸本調査事務所
問合せ先 0859-139-1807

町報 ほうき 平成19年 2月号 NO.26

発行 伯耆町役場
編集 自治振興課町づくり推進室
〒689-4133
鳥取県西伯郡伯耆町吉長37番地3
電話 0859-68-3111(代表)
FAX 0859-68-3866
伯耆町ホームページアドレス
<http://www.houki-town.jp/>
印刷 (株)高下印刷

